

スズメノテッポウ

イネ科，一年生（越年生）

抵

本県の麦類においてもっとも代表的な雑草である。湿った土に多く、ブロックローテーション地域で広く発生が見られる。無防除の場合を中心に蔓延ほ場が見られ、収量・品質低下の要因や収穫作業の支障となっている。

発生期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
	出芽				出芽		出穂結実					



形態的特徴	葉身は線形で先がとがり、巻いて抽出する。年内は土壤に張り付くように生育し、赤紫色を呈するので、土と同化して目立ちにくい。年内に3～5葉期に達する。出穂後の草丈は50cm程度で大型化しない。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・麦類ほ場において出芽数のピークは11月中旬頃である。 ・埋土種子は、湛水・非湛水状態に関わらず2年程度で死滅する。（2年3作のブロックローテーションでは減少しない） ・他県で除草剤抵抗性個体が確認されている。（ALS阻害剤抵抗性，トリフルラリン（ジニトロアニリン系）抵抗性）
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤抵抗性個体が確認されている県が多いので、異なる系統の剤を輪番で使用するとともに、発生個体を少なく管理することが望ましい。 ・本県では、土壌処理剤を適切に使用することで防除できるほ場が多いと考えられる。 ・ハーモニー75DF水和剤は、スズメノテッポウ5葉期までに使用する。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・スズメノテッポウの種子は2年程度で死滅するので、麦類に輪換することがあらかじめ分かっている場合は、水稻収穫後の秋耕・春耕によって、すき込みによる出芽個体の死滅や乾燥による種子の死滅が可能である。